

(様式 1)

令和 7 年度 学力向上を図るための全体計画

学校名	墨田区立小梅小学校
校長名	増渕 裕美

1 本校の学力に関する状況

(1) 墨田区学習状況調査結果から

成 果	課 題
・昨年度の目標に掲げていた「理科の全観点における平均正答率が目標値よりも 5 ポイント以上上回るようにする」については、第 4 学年の「知識・技能」以外の観点全てにおいて、5 ポイント以上上回る結果となった。 ・第 2～6 学年までの全 34 観点中全ての観点において、全国平均を上回った。日頃の授業に加え、学力向上タイムや放課後学習、家庭学習での取組の成果と考えられる。	・昨年度と比較すると、国語科の A 層の割合が約 4 % 下がっており、他の教科より課題が見られる。 ・全体的に B 層の割合が多いため、さらなる学力向上のため、B 層を A 層に引き上げる必要がある。 ・どの学年、教科にも 10～20% 前後の D 層の児童がいる。D 層の児童を C 層に上げる指導の工夫が必要である。

(2) 意識調査結果から

成 果	課 題
・「テストでまちがえた問題は、あとでやり直していますか。」の設問については、どの学年も全国平均と同程度または上回っており、学級や家庭でのやり直しの習慣が身に付いていると考えられる。 ・「授業や日常生活の中で、不思議だな、どうしてだろう、と思ったことを調べていますか。」の設問については、第 4 学年～第 6 学年の肯定率が高く、自主学習等の成果が見られる。	・「土日や祝日など、学校が休みの日は、1 日にどれくらい勉強をしていますか。」の設問については、第 3 学年～第 6 学年で、全くしないと答えている児童が 20% 前後おり、休みの日に家庭学習の習慣がない児童がいる。

(3) 墨田区学習状況調査や意識調査以外から明らかになっている学習に関する状況

成 果	課 題
・全国学力・学習状況調査を見ると、国語科、算数科、理科の全ての領域において、全国平均を上回る結果となった。 ・全国学力・学習状況調査の質問紙調査の結果を見ると、タブレット端末の活用に関する質問では、全ての項目において、「よくできる」割合が、全国より約 13～40 ポイント程度高い結果となった。	・国語科「記述式」の問題において、他の問題形式に比べて正答率が低い結果となった。 ・国語科「読むこと」の領域において、全国平均正答率は上回っているものの、他の領域に比べ正答率が低い傾向が見られた。

2 本年度の学力向上に関する主な取組

(1) 校内研究でのさらなる指導力向上と授業改善

昨年度に引き続き、「主体的に考え、共に学び合う児童の育成」の研究を進める。「子供の思考を促す教員のはたらき」を副主題として、児童一人一人が思考できるような土台づくりをしたり、学習環境を整えたりして、授業改善および指導力向上を目指す。

【具体的な取組】

- ・児童一人一人の思考が深まるような学習活動を計画し、児童の興味関心を高める教材開発や主体的に取り組める学習課題の設定を行う。
- ・自力解決の前に考える視点を提示したり、全体で内容を確認したりすることで、一定の目標を全ての児童が達成できるよう、個に応じた重点的な指導を行う。
- ・一人一人の良さや可能性を引出すような学び合いを大切にしたい指導計画を立てる。

(2) 基礎基本の確実な定着

- ①「小梅スタンダード7」で、学習規律の維持徹底を図る。
- ②学力向上タイム(週2～3回)では、国語・算数だけでなく、理科や社会科、情報活用能力に関する内容にも計画的に取り組む。5～6年生においては、「新聞記事を活用した教材」に取り組み、実用的な文章から必要な情報を読み取る機会を増やす。
- ③プリント、小テスト、単元テスト等において、決められた時間内に正確に解く練習を積み重ね、見直しの習慣化を図ることにより、ケアレスミスや無解答を減らす。
- ④理科の学力向上を目指し、ふりかえりシート、ミライシード、問題データベース等で習熟を図るとともに、「指導のポイント」を共通理解し、指導に生かす。
- ⑤各教科の正答率が低く誤答が多い単元・領域は下学年にも伝え、くり返し学習し定着を図る。
- ⑥校長講話作文の取組により、話の内容を適切に捉え、さらに自分の経験や考えをまとめる練習の積み重ねをする。

(3) 学力向上委員会の組織的な取組

- ・月1回、学力向上委員会を開き、学力向上に向けた取組の確認を行う。
- ・学力向上委員会で墨田区学習状況調査の分析を行い、正答率が低かった単元、分野について共通理解を図り、授業改善に生かす。
- ・D、E層児童の、後期放課後学習教室への参加を促し、C層への引き上げを図る。
- ・9～10月、1～4月の学習ふりかえり期間で、ふりかえりシートやミライシード、問題データベースに重点的に取り組む。
- ・3月、4月に、墨田区学習状況調査、全国学力・学習状況調査の過去問に2回以上取り組む。

3 「令和8年度 墨田区学習状況調査」における目標

(1) 目標

- ・各教科B層からA層への引き上げを目指す。A層の児童が5%増加することを目指す。
- ・各教科の記述問題の無解答率を10%以下に減らす。
- ・令和8年度 墨田区学習状況調査では、4～6年生の理科の全観点における平均正答率が目標値よりも5ポイント以上上回るようにする。